

5

Oct 2003

素顔の阿蘇を探す旅。

“あ”はすべての原点、“そ”は蘇生。  
阿蘇は原点に返って復活する場所。  
素顔の阿蘇に触れ、  
自分自身を探してみませんか。

# 大陸

*ASO Continent*

2003年

# スローコミ

ゆっくり歩く・自転車で走る

## 阿蘇づくり

現在の阿蘇の観光は、有名観光地を飛び回るフーストスピードの旅が主流。これまでの観光をやう歩進めて、

徒歩や自転車のゆっくりとした移動で阿蘇全域を楽しんでおこうと「スローな阿蘇づくり」を推進しています。

スローな阿蘇づくりとは、新しい交流のしくみづくりのことです。阿蘇地域の中をゆっくり歩いたり自転車でのんびり走ったりしながら自然案内人や地元の人たちと交流することで、阿蘇が持つている素顔の魅力を発見する

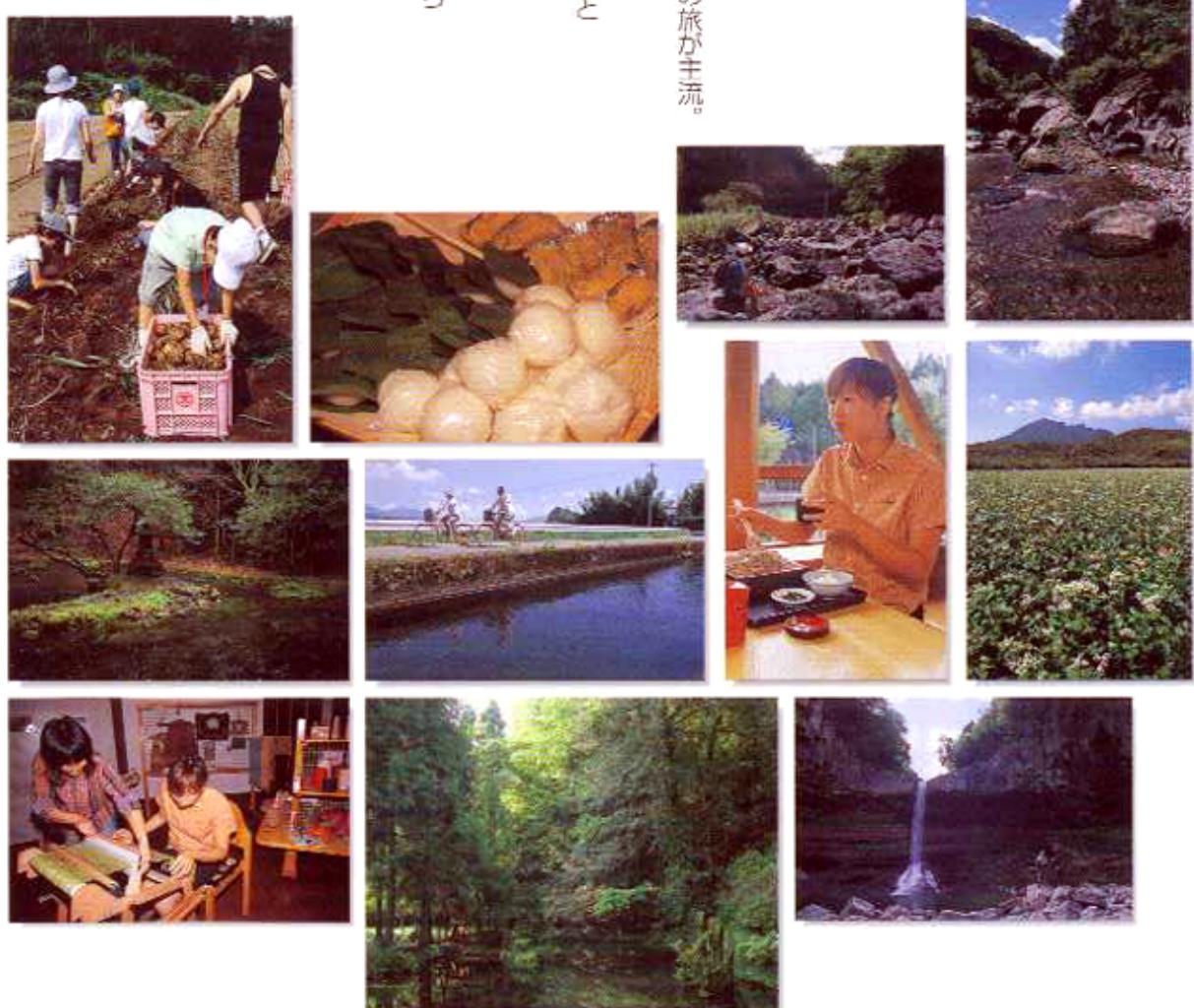
「阿蘇カルデラツーリズム」の開発と

国道57号線の渋滞解消や環境保全なども考慮して、公共交通機関などの交通体系を整備する

「交通アクセスのネットワーク化」を図ることです。

阿蘇全域旅游まるごと」を活用した

新しい旅のあり方を全国にアピールしていきます。



### 今年も実施します！交通アクセスのネットワーク化 (国土交通省 阿蘇公共交通利用転換推進事業) (10月18日・19日、25日・26日、11月1日・2日の土・日曜6日間実施)

草原に咲く小さな花、情緒あふれる町並み、のどかな農村風景など、自動車で通り過ぎてはわからない阿蘇の魅力はまだまだたくさんある。ゆっくりのんびり歩いてみる、サドルにまたがりペダルを漕ぐ。澄んだ風を体中に受けながら、阿蘇のどこまでも続く大草原や雄大な山々をながめ、目に付いたお店にふらっと立ち寄ったり…。地元の農家を訪ねてみたりするのもいい。新しい発見と出会いが待っているのが、スローな旅だ。そんな旅がより堪能できるよう、「パークアンドライド」、「サイクルトレイン」「循環・接続バス」を実施し、交通アクセスをネットワーク化する。「パークアンドライド」とは渋滞規制緩和のため、JR豊肥本線大津駅周辺駐車場にマイカーを駐車しておき、公共交通機関を利用して阿蘇へ足を運ぶというもの。「サイクルトレイン」はJR九州や南阿蘇鉄道の列車に自分の自転車とともに乗降することができ、「循環・接続バス」では町村の枠を越えて広域的に走るバスを運行する。この交通手段を利用すれば、素顔の阿蘇の自然や歴史、文化、そして暮らしを、もっと体中で感じることができる。

#### ○パークアンドライド

マイカーをJR豊肥本線肥後大津駅に駐車すれば、列車や循環バスに乗って、ゆっくりとした阿蘇の旅が楽しめる。また期間中、1000円でJR豊肥本線立野駅～宮地駅間、南阿蘇鉄道立野駅～高森駅間が乗り降り自由になる「阿蘇カルデラきっぷ」も発行される。

#### ○サイクルトレイン

JR豊肥本線の熊本駅から宮地駅、南阿蘇鉄道の立野駅から高森駅まで自転車ごと乗ることができます。サイクルトレインは1日1往復の運行です。

#### ○循環・接続バス

阿蘇カルデラの阿蘇谷（一の宮町・阿蘇町）と南阿蘇南郷谷（高森町・白水村・久木野村・長陽村）では、駅や施設、農村、商店街を回る循環バスが運行する。外輪山の小国郷（南小国町・小国町）、東外輪（産山村・波野村）、南外輪（蘇陽町）、西外輪（西原村）などの町村へもツーリズムに整った接続バスが運行する。

#### 【問い合わせ先】 財団法人阿蘇地域振興デザインセンター

〒869-2612 熊本県阿蘇郡一の宮町宮地2402  
TEL: 0967-22-4801  
FAX: 0967-22-4802  
<http://www.asodc.or.jp>  
E-mail: asopost@asodc.or.jp



自転車ごと列車に乗れるサイクルトレイン。阿蘇への行き帰りを心配しないでサイクリングが楽しめる。



JRやバスの時刻表や路線が詳しく載っているガイドブック。JR熊本、肥後大津、立野、宮地、阿蘇、高森駅に設置される。



時には立ち止まつたりして、ゆったりとした時間を満喫しよう。

今年から新しく出来た  
循環・接続バスのルート紹介です。

その1 実際にバスのルートを旅してみました！

波野村・産山村

(宮地駅前)「道の駅」神楽苑前(うぶやま牧場)花の温泉館(宮地駅前)



モバシフト小200円、大300円。[おしゃれ]。

料金は税込で、支払は900円+税。

波野・産山ルート接続バスの始発点はJR宮地駅。ここからバスにゆられる」と約17分、まずは最初の停留所、波野村の道の駅「神楽苑」でバスを降りた。ここは、地元農家の生産者が持ち寄った、新鮮な朝取り野菜の直売コーナーが好評の物産館。昔から神楽が盛んな波野村では、毎年3、5、10月に、ここで神楽公演が行われる。また、波野産のそば粉を使って、そばの手打体験もできる人気のスポットだ。そう、波野村はそばの名産地なのだ。昼と夜の寒暖差が激しい環境が、香り高い風味豊かなそばを作るのだという。早速、そば打ち体験を申し込んだ。そば粉と水を合わせてこね、長いのし棒で生地を縦横交互に伸ばすことを繰

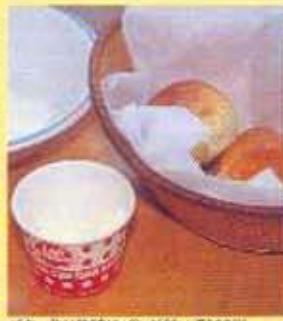
体験モノが目白押しの波野・産山エリア  
まずは神楽苑で「そば打ち」にトライ!



二番目の修習所「やすらぎ交流館」。廃校になった小学校の校舎を再利用した宿泊・研修施設で、トレーニングや屋芸体験、団体でのそば打ち体験などができる(要予約)。施設が空いている時は1泊800円。

り返し、一枚の布のように薄くする。次に、生地を破かないよう慎重にたたみ、そは包丁で切っていく。まずは指導員の佐藤高治さんが、「肩の力を抜いて、均等の太さに切って」と切り方のお手本を見せてくれた。しかし包丁をバトンタッチした途端、いきなり太い麺になってしまったのは、ながら悲しかった。均等の細さに麺を切り揃えるのは、なかなか難しいものだ。出来上がったそばは、館内にあるレストラン「岩戸開」で料理してもらえる。太さがバラバラで、手作り感いっぽいのそばに、何とも言えない愛着を感じつつ、箸を進める。太い麺と細い麺が入り乱れ、食感は何とも複雑。でも、そばの風味の良さといつたら……初体験の手打ちそばに大満足だ。デザートに、店頭で売られていた、そばのソフトクリームをいたなく。バニラの風味にそばの香ばしさが驚くほど良く合い、後口も爽やかだ。すっかりそばソフトのファンになってしまった。神楽苑の裏手には、「神楽資料館」や「ダイナミックな木の遊具が設えられた「木の体験広場」もあり、神楽の魅力を学んだり、自然の中で遊ぶこともできる。

遊ぶ、作る、学ぶ、食べる  
牧場の楽しみ方を教えてもらう



コツを教えてもらひながら、バタン・バタン

バター作り体験はナビンが付いて300円



※訪問300円・タペストリー作り800円で体験できる

阿蘇主岳：大分の久那山と並んで福岡県山の中央に位置する、高さ843mの「妙岳」。260度の太パノラマが楽しめる、波野村を走るビューポイント。脚下には、古記のある唐松山に、杉の木立が波のうねりのよう脈間に生える波對村が見渡せる。「波對」といつ村名は、この波のような脈めぐらしがられたのが由来とか。波瀬バスの停車所は、赤坂中腹にある半蔵庵跡。神奈御の墓石には波瀬山があり、頂上まで約45分程度で歩いていく。

でも、そばの風味の良さといたら……初体験の手打ちそばに大満足だ。デザートに、店頭で売られていた、そばのソフトクリームをいたたく。パニラの風味にそばの香ばしさが驚くほど良く合い、後口も爽やかだ。すっかりそばのファンになってしまった。神楽苑の裏手には、「神楽資料館」やダイナミックな木の遊具が設えられた「木の体験広場」もあり、神楽の魅力を学んだり、自然の中で遊ぶこともできる。

験も充実している。牧場で育つている羊の毛を使って、機械織りやタペストリー作り、コマのような「スピンドル」という道具を使った糸紡ぎ体験。また、バター作りやアイスクリーム作り(要予約)もできるのだ。

## 日帰りツアーの最後は温泉 自然の中で癒され、元気復活！

午後2時半。日帰りツアーもそろそろ終盤。やはり温泉ははずせないと、「花の温泉館」へと向かった。ここは、温泉のほか、四季を通して花やハーブが楽しめるハウスガーデン、バンナ房やレストラン「流茶屋」、お土産コーナーもある。昭和初期をイメージしたというレトロな外観の家族風呂も昨年出来たばかりだ。買い物や食事はあとでゆっくり楽しむとして、早速温泉へ直行する。自然光がやさしく差し込む開放的な大浴場は、ハーブ湯や露天風呂が楽しめ、サウナも完備している。疲労効果の高い、カモマイルのハーブ湯に浸かってし

宿泊するなら、5軒ほどの民家が施設。「山の里」では、1泊2食付で7500円から利用できる。写真は、山の里的自家生産の牛肉を使った鍋料理(2000円～2500円)。ズラリと並ぶ、對り角かな自家製漬物も付いて好評だ。

岩焼き1240円、レストランの

ディナーは、さわやかビーフの溶岩焼き1240円、レストランのおすすめメニューだけあって、贅沢な味わいに舌鼓をうつことしきり。

温泉と美味しい食事で、すっかり元気も復活し、お土産売場をぶらつく。地元の菓子店と提携して開発した、ヒゴタイの花をイメージして作ったお菓子「ひごたい」10個入り500円や、近くにある池山水源の水1リットル100円など、産山の魅力が詰まつたお土産がスラリと並んでいて、いろ

いろ見比べながら選ぶのも楽しい。温泉館の隣にあるバン工房にも寄つてみた。店の扉を開けた途端、香ばしい香りに包まれる。ここで一番人気は、おからを出さない特殊製法の豆乳を使った手作りパン。もちりとしてコクがあり、しかも無添加というヘルシーさで、残っていた豆乳食パンを購入し、

花の温泉館を後にした。バスはやまなみハイウェイを抜け、JR宮地駅へと戻る。何度も車を走らせたことがある道だが、こんなにゆ

っくり阿蘇の景色を眺めたのは、初めてのような気がする。普段は付き、ほんわかとした温かな気持ちに包まれる。のんびりとしたバスの旅はこんなところが多い。今日は日帰りだったが、今度は泊まりで、もっと「スローな旅」を楽し

みたい…と、早くも、波野・産山一泊旅行プランを練りつつ、帰りの

バスにゆられていた。



水源みに多くの人が訪れる油山水。



### その2 最後のバス停の近くには こんな素敵な場所があるのです。

#### 農家立ち寄り

（南小国町）（阿蘇駅前～中原～阿蘇駅前）

中原バス停から徒歩約5分。静かな山里にある兼業農家・鞭馬さんのお宅では、訪れる人々を自家製団子とお茶でもてなしてくれる。場所は、かつての牛小屋を活用した自宅敷地内の小屋。気さくで明るい鞭馬さんとのおしゃべりを楽しみながら、素朴な甘さの団子を味わえます。つかり身も心も癒されます。

今年7月、「都市の人々との交流を通して、農家のことを直に知つてもらいたい」と、地元農家の主婦7人で「農花の会」を結成。花やハーブ、郷土料理など、それそれが生産しているものを用い、自家の縁側や庭先を利用して、七人七様の方法で観光客をもてなす。鞭馬さんの場合は、地元・黒川温泉の旅館や

さんのお宅では、訪れる人々を自家製団子とお茶でもてなしてくれる。場所は、かつての牛小屋を活用した自宅敷地内の小屋。気さくで明るい鞭馬さんとのおしゃべりを楽しみながら、素朴な甘さ

の団子を味わえます。つかり身も心も癒されます。

今年7月、「都市の人々との交流を通して、農家のことを直に知つてもらいたい」と、地元農家の主婦7人で「農花の会」を結成。花やハーブ、郷土料理など、それそれが生産しているものを用い、自家の縁側や庭先を利用して、七人七様の方法で観光客をもてなす。鞭馬さんの場合は、地元・黒川温泉の旅館や

さんのお宅では、訪れる人々を自家製団子とお茶でもてなしてくれる。場所は、かつての牛小屋を活用した自宅敷地内の小屋。気さくで明るい鞭馬さんとのおしゃべりを楽しみながら、素朴な甘さ



#### さこんうえの蛙

（河津正純さん・慶子さん）

山あいののどかな集落に佇む、農家民宿「さこんうえの蛙」。静寂に包まれた2棟の客室には、「会話を大切にしてほしい」と、あれこれと立寄ってみたかった。

河津正純さん・慶子さんは、

自家栽培の米や小麦、野菜など

夫婦の温かく飾り気のないもて

なしにリビーター客も多く、口コミで評判が広がっている。

公務員だった正純さんが農家民宿始めたのは、10数年前、テレビで見たドイツの農家レストランがきっかけ。オーストラリアで農業を体験するなど試行錯誤を重ねた末、平成7年にオープンした。「都会の人たちは、精神的な面で“何か”を求めている。それが“田舎”はある。ほど安らげる空間、つまり人々がエネルギーを充電する場所であつてほしい」と正純さんは、「こ」まで手探りの状態で来て、やつと自信がついた。お客様には必要以上に受け入れてもらいたい。私たち流の「こびたりせすに、ありのまま」を満足してくれる人に来てほしいですね」と話す。二人の生きがいは、楽しみに来てくれるお客様がいる限り、少しでも長く宿を続けること。大きな目標に向かって、今日も一人三脚でがんばっている。

河津正純さん・慶子さんは、

夫婦の温かく飾り気のないもて

なしにリビーター客も多く、口

コミで評判が広がっている。

公務員だった正純さんが農家

民宿始めたのは、10数年前、テ

レビで見たドイツの農家レストラ

ンがきっかけ。オーストラリアで農

業を体験するなど試行錯誤を重ねた末、平成7年にオープンした。

「都会の人たちは、精神的

な面で“何か”を求めている。

それが“田舎”はある。ほど安

らげる空間、つまり人々がエネル

ギーを充電する場所であつてほしい」と正純さんは、「こ」まで手

探りの状態で来て、やつと自信がついた。お客様には必要以上に受け入れてもらいたい。私たち流の「こびたりせすに、ありのまま」を満足してくれる人に来てほしいですね」と話す。二人の生きがいは、楽しみに来てくれるお客様がいる限り、少しでも長く宿を続けること。大きな目標に向かって、今日も一人三脚でがんばっている。

河津正純さん・慶子さんは、

夫婦の温かく飾り気のないもて

なしにリビーター客多く、口

コミで評判が広がっている。

河津正純さん・慶子さんは、

夫婦の温かく飾り気のないもて

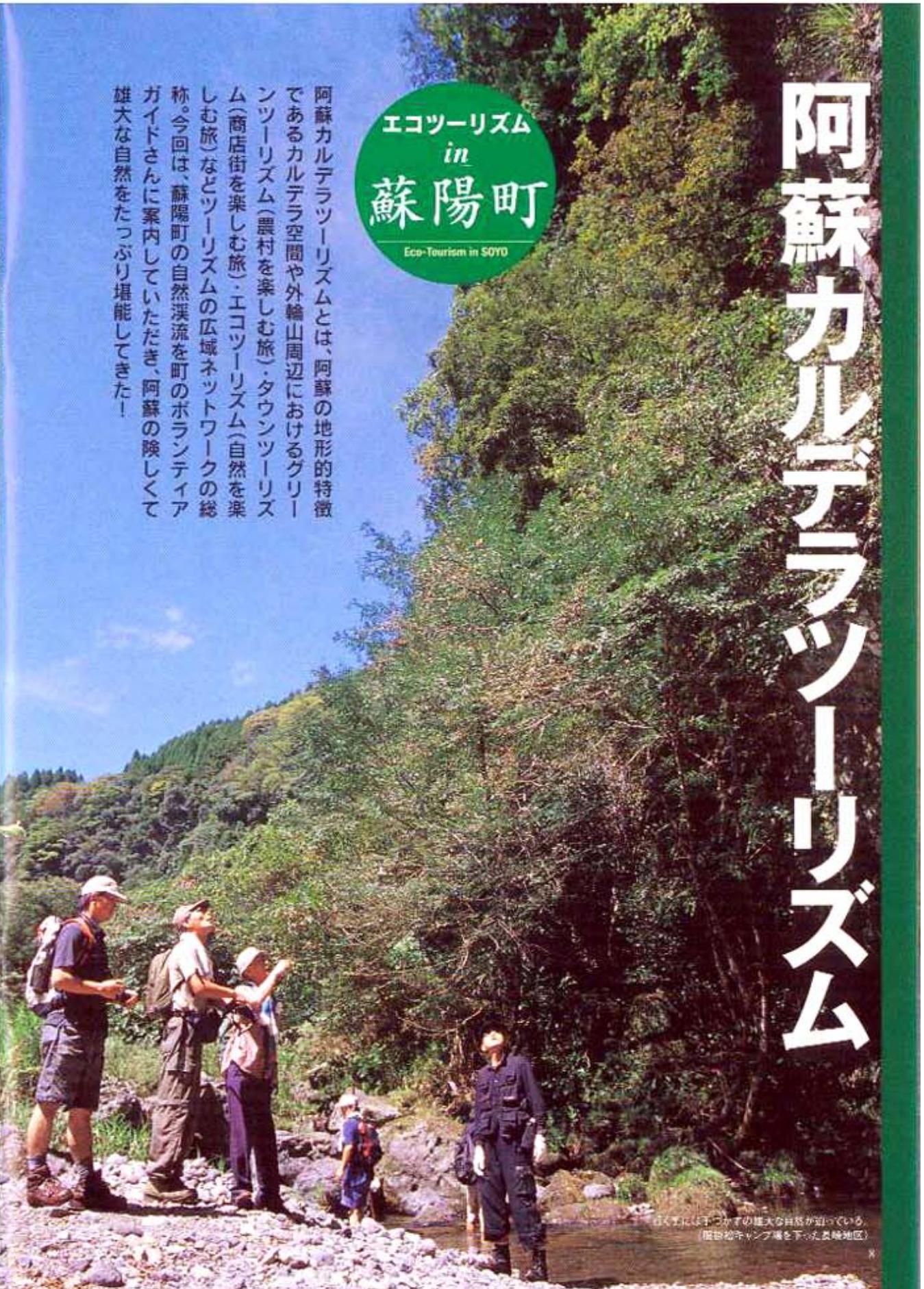
なしにリビーター客多く、口

# 阿蘇カルテラツーリズム

エコツーリズム  
in  
蘇陽町

Eco-Tourism in SOYO

阿蘇カルテラツーリズムとは、阿蘇の地形的特徴であるカルテラ空間や外輪山周辺におけるグリーンツーリズム（農村を楽しむ旅）・タウンツーリズム（商店街を楽しむ旅）・エコツーリズム（自然を楽しむ旅）などツーリズムの広域ネットワークの総称。今回は、蘇陽町の自然渓流を町のボランティアガイドさんに案内していただき、阿蘇の陥しくて雄大な自然をたっぷり堪能してきた！



手つかずの雄大な自然が残っている。  
(服掛松キャンプ場を下った表緑地区)

渓谷一帯の  
手つかずの  
自然を満喫

「九州のへそ」に位置する蘇陽町には、「九州のグランドキャニオン」と呼ばれる「蘇陽峡」がある。実際にその蘇陽峡が一望できる長崎展望台に立ち、壮大なスケールと対峙したとき、このキヤツチフレーズがけつして大きさでないことが分かった。眼下に長さ13キロ、最大幅約300メートル、深さ150～200メートルのU字型渓谷がまさにバノラマ写真のように広がっていたからだ。

今回のトレッキングは、「ヴァレ・アスレチック」と名付けられ、蘇陽峡をえぐるように流れている五ヶ瀬川の渓流をさかのぼるルート。起点は渓谷の台地にある服掛松(ふくかけまつ)キャンプ場から芋渡瀬(さわたりのたき)までの約3キロ、約2時間余りの行程だ。ヴァレ・アスレチックを考案したのは地元の馬見原(まみはら)街づくり協議会(会員81人)の面々。会長の本田彰さんによれば、このユニークな企画が誕生したきっかけは1995年6月完成した馬見原橋開通の祝賀イベントとのこと。幼い頃、川で楽しく遊んだ経験が企画のベースにもなっている。冒険は

茂みに覆われた急斜面の里道を下ることから始まった。今では要所に柵や階段が設けられ整備されているが、以前は驛りに出ることがあったという。15分ほど歩くと視界が開け、民家が建つ山里に出た。さっそく畠を通り抜けた川岸から運動靴のまま川に踏み入れ、シャブジャブと音を立てながら歩き始める。すると、川の冷たさ、匂い、踏みつけた川底の砂利が心地よい感触となつていっぺんに五感に伝わってきた。

このルートは、阿蘇カルテラツーリズムの行程だ。ヴァレ・アスレチックを考案したのは地元の馬見原(まみはら)街づくり協議会(会員81人)の面々。会長の本田彰さんによれば、このユニークな企画が誕生したきっかけは1995年6月完成した馬見原橋開通の祝賀イベントのこと。幼い頃、川で楽しく遊んだ経験が企画のベ





## 自分で自身で創る サバイバルゲーム

豊かな自然を活用したサバイバルゲーム



豊かな自然を活用したサバイバルゲーム



清流一帯にはハエ(オイカリ)やイグイなどの水中生物のほか陸虫などが生息し、6月中～下旬にはオタルも見られる。

からは染み出た清水は白い布となつて流れ落ちている。上を見上げると、さつきよりも空が高くなっていた。目的地近くまで差しかかってみると、川幅が広くなり大小の石や砂利に覆われた河原が現われた。そして突然正面に切り立った岩壁から流れ落ちる一筋の滝が出現した。「あれが牛瀧滝ですよ!」。20メートルほどの岩盤から勢いよく清水が流れ落ちていた。漫食された周囲の岩肌から判断すれば、多分、増水期には幅数十メートルの大瀧布となるに違いない。しかし、牛瀧滝の轟音に我を忘れ水煙に見とれると、それまでの緊張と疲れが癒され、何とも言えない充実感に満たされてきた。

夏場は増水しているため膝ぐらいで浸かることがあるが、川面に出でている石や岩を飛び石にすむ。地形によつては流れや深さを確かめた上で川の中を歩くことになる。しかし、ルートの中ほどまで来ると5～6メートル四方もあるうか、大きな岩石が川面に突き出し、行く手を妨げている難所が3、4カ所も待ち受けている。四つん這いになつて乗り越えるほか、なすすべがなく、ちよつとしたスリルと冒険が味わえる。ガイドに頼らなければ、自分で独自のルートを選びながら歩くと一段と面白みが増してくる。しかし、判断を誤ると途中から引き返さなければならぬ羽目となる。「大きさに表現すれば、自分で自身で創つていいくサバイバルゲームです」と笑っていた本田さんの言葉が納得できる。さらに進むと、両岸は高さ100メートル以上もある凝灰岩壁や樹木に覆われ、うつそうとした地形が連なり、岩壁の中腹

夏場は増水しているため膝ぐらいで浸かることがあるが、川面に出でている石や岩を飛び石にすむ。地形によつては流れや深さを確かめた上で川の中を歩くことになる。しかし、ルートの中ほどまで来ると5～6メートル四方もあるうか、大きな岩石が川面に突き出し、行く手を妨げている難所が3、4カ所も待ち受けている。四つん這いになつて乗り越えるほか、なすすべがなく、ちよつとしたスリルと冒険が味わえる。ガイドに頼らなければ、自分で独自のルートを選びながら歩くと一段と面白みが増してくる。しかし、判断を誤ると途中から引き返さなければならぬ羽目となる。「大きさに表現すれば、自分で自身で創つていいくサバイバルゲームです」と笑っていた本田さんの言葉が納得できる。さらに進むと、両岸は高さ100メートル以上もある凝灰岩壁や樹木に覆われ、うつそうとした地形が連なり、岩壁の中腹



牛瀧滝から「地上」へ、巣穴斜面には階段が設けられている。



これが牛瀧滝。ゴールはもうすぐ。



樹木が生い茂る岩間のあちこらから清水が流れ落ちる。



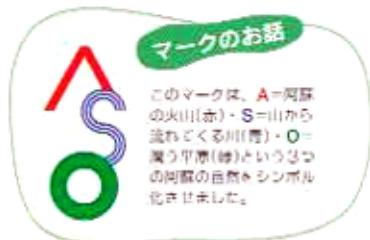
目の前に広がる豊かな自然を楽しむと忘れてしまう。

●問い合わせ先  
●そよ風パーク  
〒861-3913 鹿児島県阿蘇郡蘇陽町大字今500  
TEL 0967-833-1111  
FAX 0967-833-0549  
蘇陽町役場企画観光課  
〒861-3913 鹿児島県阿蘇郡蘇陽町大字今500



# ASO Design Center Information

(財)阿蘇地域振興デザインセンターは阿蘇郡12町村の地域づくり、観光振興、環境・景観保全、情報発信を行なっています。



## 長陽村「陽の長い一日の村美術館」

村全体を大きな美術館と見立て、陶芸・写真・竹アート・かずら編み・木工など村内外の作家の作品を、温泉、駅、民家等をギャラリーにして展示します。週末には、ミニコンサートやこども劇場、映画上映会などの他に、陶の器フェアーやフリーマーケットなどのイベントも行います。



期日 ●平成15年10月1日(水)～10月31日(金)

場所 ●長陽村一円 メイン会場は長陽村総合産業センター「ウィズ」

お問い合わせ ●陽の長い一日の村美術館実行委員会事務局  
(長陽村役場産業振興課内) TEL 0967-67-1111 内線151

## 白水村「おあしすフェスタ」

白水村内の産業文化祭。体育馆の中では村内の方々の作品展示や健康チェックのコーナー、野外では各種バザーやステージイベントなど盛りだくさんです。お米のつかみ取りコーナー等もあり楽しいひとときが過ごせます。



期日 ●平成15年11月2日(日)

場所 ●白水村農村労働者センター(村体育馆)

お問い合わせ ●白水村企画観光課 TEL 0967-62-9111

## 阿蘇新そば祭り

実りの秋、紅葉と共に阿蘇には11月から待望の新そばが一斉に出回る季節です。秋には“そば処”阿蘇で、紅葉を愛でながら、温泉に浸かって、香り高く、風味豊かな新そばを味わってみてください。

### なみの高原 新そばまつり

期日 ●平成15年11月中旬予定

場所 ●波野村 道の駅「神楽苑」駐車場

お問い合わせ ●波野村役場 農政課 TEL 0967-24-2001

伝統芸能の神楽公演を楽しみながら、波野の新そばを味わってください。

### 久木野村 新そばまつり

期日 ●平成15年11月3日(月)「文化の日」(予定)

場所 ●久木野村「そば道場」周辺

お問い合わせ ●久木野村 産業振興課 TEL 0967-67-2111

「そばかいわれ栽培セット」の販売や、そば料理が楽しめる食事コーナーもあります。

もつすぐ開催!!

## 全国エコツーリズム大会 in 阿蘇

世界的なカルチャーでも最大な資源を有する阿蘇地域で自然と文化をテーマとした参加体験の結果を交流する「エコツーリズム」全国大会を開催します。九州及び阿蘇地域におけるエコツーリズムの在り方のシンボル化や分科会、地域内の施設開拓を行なう「コースを実際に体験する」ことを行ないます。

日程 10月31日(金)～11月4日(日)

開催地 国立公園は年の春及び阿蘇地域の観光資源活用会議  
主催 全国エコツーリズム大会実行委員会  
協賛 (財)法人阿蘇地域振興センター、NPO法人日本エコツーリズム連盟

◆協力団体 (申請・国交省観光局の協力)

◇基調講演 「玉のアーツなど何ぞ?」  
講師：青柳昭夫氏、京都嵯峨美術大学教授

◇基調講演 「阿蘇の魅力と開拓力」  
講師：高元英樹氏、財團法人阿蘇地域振興センター事務局長

◇シンポジウム 「阿蘇の環境実験場つくり」  
アーバンガーデン情報交換会

◆展示会 (会場・阿蘇地域内の姫川・交流施設等) 会場紹介

◇アートヒョウマーク 12コース

◇温泉寺垂天口(掛川・阿蘇火山美術館)コース(温泉寺)

◇阿蘇市御所温泉(阿蘇・大正・昭和)を望む絶景5コース(温泉寺)

◇筑後川上流域自然歩道コース(小国町)

◇小国町の温泉と古代巨石文化をめぐるコース(由田小国町)

◇温泉郷の食と宿をめぐるコース(由田小国町)

◇八代市(由田・八代)の山林の森を歩くコース(久木野村)

◇九重山脈(阿蘇・大正・昭和)を望む絶景5コース(高千穂村)

◇大熊原古墳群(大熊原・大熊原町)

◇阿蘇の湧水めぐらコース(由水町)

◇由水町のアマと杉の巨木の森を歩くコース(久木野村)

◇阿蘇の湯の名水の山林散策コース(高千穂村)

◇伊豆の古代文学(ベトナム)と石を訪ねるコース(高千穂村)



### 【問い合わせ先】

「全国エコツーリズム大会in阿蘇」実行委員会事務局 (財团法人阿蘇地域振興デザインセンター内)

TEL : 0967-22-4801 FAX : 0967-22-4802  
E-mail : asopost@asodc.or.jp

\*上記内容はあくまで予定です。今後変更する事もありますのでご了承ください。詳しくは上記実行委員会までお問い合わせください。

5

第5号

ASO Continent OCTOBER 2003

平成15年10月1日発行 新規／発行／(株)阿蘇地域振興デザインセンター

〒860-2812 鹿児島県霧島市一の宮町254-4922 TEL 0967-22-4801 FAX 0967-22-4802 発行人◆坂元亮世 貣題◆(株)マインドシップル